

The Human 識者に聞く

名古屋市立大学 先端医療技術イノベーションセンターでは、2017年の開設以降、
献体を用いたサージカルトレーニングを多数実施してきました。歯科口腔外科領域においては、
日本口腔外科学会がキャダバーサージカルトレーニングを全国のいくつかの大学にて実施しており、2019年度には
名古屋市立大学との共催で「第8回日本口腔外科学会キャダバーサージカルトレーニング」が開催されました。
そこで今回は、インストラクターとしてもトレーニングに関わる名古屋市立大学口腔外科学の渋谷恭之教授に、
歯科口腔外科領域におけるサージカルトレーニングの重要性や今後の展望などについてお聞きしました。

術前のシミュレーションから術後の評価に至るまで 一貫してトレーニングできる環境を整備したい。

名古屋市立大学大学院
医学研究科・口腔外科学 教授
名古屋市立大学病院・歯科口腔外科 部長

渋谷 恭之

1989年九州大学歯学部卒。1996年医学博士取得。
2002年神戸大学医学部附属病院・手術部 副部長、
2011年神戸大学医学部附属病院・口腔外科学分野
准教授などを経て、2014年7月より名古屋市立大学
大学院医学研究科・口腔外科分野 教授を務める。



OJT(業務を通じた訓練)で経験を積んでいくのが一般的です。ただ、執刀を任せてもらうといっても、患者さんの安全を確保できる範囲にとどめるため、どうしても経験を積める範囲は限られてしまいます。サージカルトレーニングの場合、経験の浅い術者であっても、ある程度、自分なりの考えで手術を進めていけますから、上手くいった点、いかなかった点を含めて、そこから得られるものは大きいと思います。

とはいえ、サージカルトレーニングで貴重な学びを得ても、その1回のみで手術が上手くなるわけではありません。トレーニングを受ける際には事前準備をしっかり行い、事後の復習を欠かさないこと。そして、トレーニングで得た経験を実際の手術に活かしながら、たくさんの経験を積むこと。そうした全てが繋がって初めて、技量は向上するのだと思います。

医療事故のニュースを耳にし トレーニングの重要性を痛感。

私がサージカルトレーニングの重要性を強く意識したのは、20年ほど前。当時、高度先進医療に指定されていた腹腔鏡下前立腺摘出術に関する医療事故を知った時です。医療はその大前提として、患者さんの安全・安心が担保されている必要があります。私は、実際の医療現場において、十分な経験を積んでいない医師が執刀を行っていたという事実に衝撃を受けるとともに、トレーニング環境を充実させる大切さを痛感したのです。そしてその後、日本口腔外科学会の理事長を務められていた栗田賢一先生が、「口腔外科領域においてサージカルトレーニングを行わない」という思いを持っておられることを知り、「私もやらなければならない」と強く感じました。

事前の準備や事後の復習を行い OJTに活かすことが重要。

歯科口腔外科領域においては、口腔がんの治療や顎変形症の手術、インプラント治療などが難しい手技として挙げられます。そして、これらの技術を習得するためには、先輩の手技を見学し、少しずつ執刀を任せてもらいながら、

術前にCTを撮影し、 より臨床に近い環境を実現したい。

今後は、実際の手術にできる限り近い環境でトレーニングできるようにしていきたいと考えています。なかでも早々に実現したいのが、CT撮影装置の設置です。

実際の歯科口腔外科手術の現場では、当たり前のように、術前のCT撮影や、それに基づくシミュレーションが行われています。そのため、サージカルトレーニングにおいても、CT撮影、術前のシミュレーション、実際の手術トレーニング、そして術後の評価に至るまで、一貫した環境を整備する必要があります。私たち歯科口腔外科の領域においても、特にインプラント手術を学ぶ際などに有効だと思います。

サージカルトレーニングでは、医療の発展のために、尊いご遺体を活用させていただくことになります。その機会を最大限に活かすには、臨床に近い環境を整備し、より実践的な学びの場としていくことが重要ではないでしょうか。

医療を育てる活動にご参加ください。

メリジャパンでは「医療を育てる活動」へのご協力をお願いしています。

1 ご寄付・ひとさーじ募金について

みなさまからのひとさじくらいのお気持ちで、医療を育てることができる。「ひと」を治療する「サージ」カルトレーニングを支えてほしい。このふたつの思いから、メリジャパンへの募金を「ひとさーじ募金」と名付けました。一口1,000円からでクレジットカードもご利用いただけます。

ひとさーじ募金は、サージカルトレーニングならびにメリジャパンの運営に役立たせていただきます。くわしくは下記ホームページをご覧ください。



QRコードは
こちら



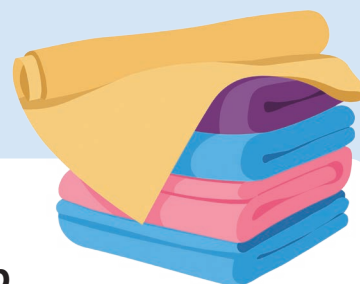
ホームページ 寄付サイト

http://www.merijapan.org/support.html#sec_2

2 使っていない、または使い古しのタオル・シーツの寄付をお願いします

手術手技の実習を行う際、ご献体が機器に直接当たらないよう保護したり、実習をしない部分を覆ったりするためにタオルを多く使用します。

もしご家庭に、使っていない、または使い古しのタオルやシーツがありましたら、お譲りいただけると助かります。



- 使い古しのタオル・シーツの場合、**洗濯がされているもの**をお送りください。
- 着払いでの発送が可能です。事前にお電話かメールでご連絡ください。

TEL 052-784-8775 E-mail meri_info@hachiya.or.jp

タオル類の送付先

〒464-0821 名古屋市千種区末盛通2-4 西館3F
はちや整形外科病院内 NPO法人メリジャパン 宛
TEL 052-784-8775

編集 後記

メリジャパンでは2015年から33回のご献体を用いたサージカルトレーニングの運営に携わり、見学者含め延べ375名の先生方・看護師さんにご参加をいただきました。ご参加・ご協力いただいた先生方・みなさまにお礼申し上げます。

せっかくの春なのに新型コロナウイルス感染拡大の影響で自粛の日々です。当面セミナーの開催は難しいようですので、再開に備え必要物品を整えます。先生方からはセミナー改善に関するご意見、一般のみなさまからはタオルやシーツなどをご提供いただければ大変助かります。ご寄付についても少額から、またクレジットカードでも受け付けております。ぜひご協力ください。

しばらくの間、みなさま予防を十分に、どうぞご自愛ください。



MERI Japan

特定非営利活動法人メリジャパン

〒464-0821 名古屋市千種区末盛通2-4 はちや整形外科病院内

電話 052-784-8775 E-mail meri_info@hachiya.or.jp

URL <http://www.merijapan.org>